研究
主題音楽のよさや楽しさを味わえる授業づくりを目指して
-鑑賞における表現活動を伴った実践の工夫-

第2学年音楽科学習指導案

指導月日 令和4年10月27日

所属校名 石巻市立北上中学校

氏名 中澤 麻里

1 題材名 「歌舞伎の特徴を感じ取り、そのよさや魅力を味わおう」

(教育芸術社 中学生の音楽2・3年上 歌舞伎「勸進帳」)

2 題材の目標

- (1) 歌舞伎（長唄）で用いられる音楽の特徴や構造と曲想との関連について理解することができる。
〔知識及び技能〕
- (2) 歌舞伎（長唄）の持つリズム、旋律、間を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽と物語の関わりについて自分なりに考え、音楽のよさや日本の伝統文化を味わって聞けることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) 歌舞伎特有の表現、長唄の節回しなどに関心をもち、他者の気付きを共有したり、共感したりしながら音楽の捉えを広げ、我が国の伝統音楽に親しむ。
〔学びに向かう力、人間性等〕

<本題材における学習指導要領との関連>

指導事項 B 鑑賞 (1) ア (ア), イ (ア) (イ)

〔共通事項〕(1) ア 音楽を形づくっている要素：音色、リズム、旋律

3 題材観

本題材は、学習指導要領〔第2学年及び第3学年〕2内容 B鑑賞(1)鑑賞ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、(ア)「曲や演奏に対する評価とその根拠」について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと、イ(ア)「曲想と音楽の構造との関わり」について理解すること、及び(イ)「音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり」について理解すること。〔共通事項〕(1)ア「音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。」を身に付けていく学習内容として適切であると思われる。

本題材で扱う歌舞伎は、音楽、舞踊、演技が一体となって成り立つ日本の伝統的な演劇の一つであり、雅楽や能楽、文楽などとともにユネスコ無形文化遺産に登録されている。歌舞伎の演目の中でも「勸進帳」は、天保11年に初演されて以来、歌舞伎十八番として人気の高い作品である。能「安宅」を歌舞伎にしたもので、源義経が兄である頼朝に追われて奥州へと逃げる最中の、安宅の関が舞台であり、生徒にとっても内容が分かりやすい演目と言える。また、勸進帳の読み上げや弁慶と富樫の問答、弁慶が酒に酔って舞う「延年の舞」や舞台が閉まった後に花道で行われる「飛び六方」は、歌舞伎の特徴や面白さを味わわせるのに適した教材である。そして、それらの場面をより効果的にしているのが長唄である。これらの歌舞伎の特徴や面白さから、日本の伝統音楽にも関心を持って音楽のよさや美しさを味わえるものと考え、本題材を設定した。

4 生徒の実態〔第2学年1組13名〕

全体的に、音楽に対する関心・意欲が高いが、鑑賞の授業へは消極的である。4月に実施したアンケート

ートから、音楽の特徴を見付けられないことや感想を書くことが難しいとの理由から、鑑賞が苦手だと感じていることが分かっている。このことを受け、鑑賞の学習の際に、表現活動を取り入れながら、より音楽のよさを味わえる手立てを講じてきた。「フーガ ト短調」では、主題の繰り返しと変化を感じ取らせるために主題の旋律を歌唱させた。「交響曲第5番 ハ短調」では、提示部の音楽が再現部でどのように演奏されるか、個人ごとに予想を立てさせ実際に楽器で演奏させた後、なぜそのように演奏したか、互いの考えを共有する機会もつくった。曲全体の構成を考えながら自分なりの再現部をイメージした生徒もいて、音楽の構成についてより理解を深めていた。授業実践Ⅰの後に行ったアンケートでは、3割の生徒が4月からと比べて鑑賞の授業が好きになったと答えた。その理由として、「実際に楽器で演奏するとリズムや強弱を意識するようになり、音楽の仕組みが分かった」「予想を立てたので集中して聴いたら、曲の構成が分かった」「ただ聴くだけよりも楽器で演奏してみると音楽が立体的に聞こえるようになった」などと挙げており、表現活動を取り入れたことによる効果が感じられた。

本題材における生徒の実態は以下の通りである。

<実態調査アンケート> 9月8日（木）実施 13名 11名回答（2名欠席）

1	歌舞伎に興味がありますか。			
	ある 1名	どちらかと言えばある 0名	どちらかと言えばない 6名	ない 4名
2	日本の伝統音楽に興味はありますか。			
	ある 4名	どちらかと言えばある 4名	どちらかと言えばない 3名	ない 0名
3	歌うことは好きですか。			
	好き 11名	どちらかと言えば好き 0名	どちらかと言えば嫌い 0名	嫌い 0名
4	伝統芸能を知っていますか。また、それらはどんな伝統音楽ですか。			
	知っている 3名	少し知っている 3名	知らない 5名	
	・地域の神楽 ・神社のお祭りのお囃子 ・民謡			
5	歌舞伎について知っていることやイメージを教えてください。			
	・日本特有 ・踊り ・衣装がすごい ・頭を回す ・化粧 ・華やか ・寄り目など目の動きが独特 ・市川家 ・男の人だけができる			

以上の結果から、日本の音楽に興味を持っている生徒はいるものの、歌舞伎に興味を持っている生徒は少ないことが分かった。また、日本の音楽に興味を持っていると回答した生徒は、地域に伝わる神楽や太鼓などを保護者が継承していたり、本人も練習に参加したりしている。このことから、日本の音楽や伝統音楽が身近であるほど、興味・関心が高まると言える。全生徒が歌うことが好きだと回答している点から、授業実践Ⅰと同様に、効果的に表現活動を取り入れることで、歌舞伎への理解を深めていきたい。

5 指導観

歌舞伎の特徴を味わわせるために、歌舞伎の文化や歴史、音楽、舞踊に分けて特徴を理解させ、それぞれの持つよさが融合して歌舞伎が成り立っていることに気付かせながら鑑賞できるようにしていく。まず、生徒にも馴染みのある歌舞伎役者の写真を基に、「見得」や「隈取」などの特徴的なポーズや化粧から歌舞伎に興味を持たせていく。その上で、歌舞伎が音楽・舞踊・演技の要素を融合した日本の伝統的な演劇であることを理解させていく。特に、長唄の指導に当たっては、歌う活動を取り入れることで、長唄の旋律、リズムや間、発声など、普段歌っている歌い方との違いにも気付かせていきたい。そして、歌唱で捉えた長唄の特徴を全体で共有し、改めて歌舞伎「勸進帳」を鑑賞することで、長唄の役割や効果についての理解を深めていきたい。表現と鑑賞の両面から学習活動を展開することで、日本の伝統音楽についてより身近に捉えさせ、歌舞伎への魅力を味わわせていきたい。

6 研究主題との関連

鑑賞における音楽のよさを味わうとは、曲想を感じ取りながら、音や音楽によって喚起された自己のイメージや感情を、音楽の構造や背景などと関わらせて捉え直し、その音楽の意味や価値などについて自分なりに評価しながら聴くことである。その楽曲の曲想と音楽の構造、曲想と曲が作られた背景など、根拠を持って批評することが求められる。そのためには、音楽を形づくっている音色、リズム、旋律などの要素が関連し合いながら、曲の特徴や雰囲気を生み出していることに気付かせる必要がある。また、着目させる音楽の要素を提示することで、その要素を手掛かりにして音楽の構造に気付き、主体的に捉えることができるものとする。それらを踏まえ、生徒が音楽を聴いて沸き上がった感情やイメージを肯定的に受け止めた上で、それぞれの感じ方を大切にしていきたい。

また、副題の「鑑賞における表現活動を伴った実践の工夫」については、鑑賞教材の一部分を実際に演奏したり歌ったりすることを通して、生徒自身が音楽の特徴に気付いたり、作品そのものに興味・関心を持ったりすることができるものとする。実際に表現してみて感じたことや分かったことが、鑑賞する上でのよりどころとなることから、表現活動を取り入れるねらいを明確にし、そのポイントを生徒に示しながら授業を展開していきたい。

以上のことから、【視点1】【視点2】にせまる具体的な手立てを設定し、研究主題に迫りたい。

【視点1 鑑賞して感じたことを伝え合うための指導の工夫】

<手立て>

- ・CDやDVD、タブレットなど、複数の視聴覚教材を活用して様々な視点から音楽の特徴に気付き、気付いたことを伝え合えるように授業展開を工夫する。
- ・ワークシートや板書等を工夫し、生徒に提示する学習課題や感想を書く際のポイントを明確に示す。
- ・Google Formsに考えを記入させる場面とワークシートに記入させる場面を使い分けて、考えを記述させる。

【視点2 表現活動を伴った実践の工夫】

<手立て>

- ・表現活動を取り入れ、実際に歌ったり演奏したりすることで音楽を身体に落とし込んでいく。
- ・一人では気付かなかったことや視点を広げさせるために、グループによる活動を取り入れる。

7 題材の指導と評価の計画

(1) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・歌舞伎の特徴や要素、文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解している。 ・勸進帳で使われている曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。【知識】	・歌舞伎の音楽のリズム、旋律、間を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	・歌舞伎の音楽・舞踊・演技など総合芸術に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

(2) 題材の全体計画（4時間扱い 本時2 / 4）

時	学習活動	評価規準	評価方法
1	・歌舞伎の歴史や特徴を理解する。 ・「勸進帳」のあらすじを知り、歌舞伎の舞台や音楽について、視覚教材で鑑賞する。（場面2より抜粋） ・長唄の楽器について理解する。 ・長唄が用いられる場面を視覚教材で鑑賞する。（場面1より抜粋）	・歌舞伎の特徴や要素、文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解している。（知識） ・歌舞伎の舞台構成や音楽に関心を持ち、主体的・協働的に音楽活動に取り組もうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）	・ワークシート ・観察

2 本時	・長唄「これやこの」の前半部分を歌うことで節回しをつかむ。 ・気付いた特徴に気を付けながら、グループで長唄を練習する。 ・第1時に鑑賞した場面1を再度鑑賞し、歌舞伎に対しての捉えや感じ方がどのように変わったかを書いたり、発表したりする。	・勸進帳の長唄で使われている曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。（知識） ・歌舞伎の音楽に関心を持ち、主体的・協働的に音楽活動に取り組もうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）	・ワークシート ・観察
3	・場面4の「クドキ」と呼ばれる長唄の聴きどころを鑑賞する。 ・長唄から弁慶と義経の心情を表していることに気付き、音楽と物語の関わりについて考える。 ・第2時から学習している長唄が歌舞伎の中でどのような役割を果たしているか、グループで意見交換をする。	・長唄から捉えた歌舞伎の音楽と物語の関わりについて、根拠を基に判断しながら音楽のよさや美しさを味わって聴いている。（思考・判断・表現） ・歌舞伎の音楽と物語に関心を持ち、主体的・協働的に音楽活動に取り組もうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）	・ワークシート ・観察
4	・場面3、場面5を視聴し、「見得」や「六方」の歌舞伎独特の演技を味わう。 ・音楽・舞踊・演技が一体となった日本の総合芸術を味わい、歌舞伎の魅力について鑑賞文を書く。	・第1時からの学習内容を踏まえ、歌舞伎の音楽・舞踊・演技を総合的に捉えて、歌舞伎の魅力について判断して味わっている。（思考・判断・表現） ・歌舞伎の音楽・舞踊・演技など総合芸術に関心を持ち、その見どころについて主体的に味わおうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）	・ワークシート ・観察

8 本時の計画

(1) 目標

歌唱することを通して長唄の発声や旋律、リズムなどの特徴に気付き、それらの関わりから歌舞伎における長唄の効果や役割について考え、主体的・協働的に音楽活動に取り組もうとする。

(2) 本時の指導に当たって

本時は、長唄の発声や旋律、リズムなどの特徴から歌舞伎の音楽について理解し、歌舞伎のよさを味わわせられるよう授業を展開する。音楽を形づくっている音色やリズム（間）、旋律などの要素の働きに気付き、その要素を基にして曲の感じを捉えさせることで歌舞伎の音楽の特徴と役割について考えさせる。

歌舞伎の中でも、本時は長唄に焦点を絞り、歌舞伎の音楽について理解を深めさせる。長唄は、生徒にとって馴染みの薄いものであることから、長唄の一場面を歌う活動を取り入れて、長唄への興味を持たせた上で鑑賞させる。この表現活動は、普段聴いたり歌ったりすることのない長唄の節回しを実際に歌うことを通して、実感を伴った鑑賞を促すためのものである。長唄の特徴に気付かせるために、初めはCDの音源から特徴をつかませる。その後で視覚教材を使用し、絵譜を頼りに歌い方の特徴に気付かせるようにする。この時、学級を3グループに分け、グループで1台のタブレットを使用し、教科書の二次元コードを読み込んで自分たちで練習できる場を設定する。歌唱を通して、長唄の発声や節回しから特徴を捉えさせ、ある程度歌えるようになったら伴奏楽器である三味線の音にも注目させ、長唄と三味線のずれにも気付かせる。さらに、「歌い尻」や「ゴロ」などの歌唱法により、間や余韻を生み出していることを表現していく中で実感させる。そして、日本の伝統音楽の多くは、間や余韻を大切にすることやずれの美学があることにも触れ、我が国の伝統音楽に対する関心も高めるようにする。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される生徒の反応	形態	指導上の留意点 ◎全体 □支援を要する生徒	評価
導入 5分	1 前時の復習をする ・前時に学習した歌舞伎の歴史や特徴について振り返る。 ○勧進帳では、どんな楽器が使われていましたか。 2 本時の目標を確認する 「長唄の特徴について学び、歌舞伎を味わおう」 ○今日は歌舞伎の音楽の、特に長唄に焦点を当てながら、特徴について学び、歌舞伎を味わっていきましょう。	一斉	◎歌舞伎は音楽・舞踊・演技から成り立っていることを確認する。 ◎歌舞伎の音楽では「長唄」が使われていることを確認する。 ◎本時は、音楽・舞踊・演技の中でも音楽の長唄に焦点を当てて学習していくことを確認する。	
展開 37分	3 長唄を歌唱する ○これからCDで長唄を聴きます。聴いた後で、歌ってみるので特徴を感じ取りましょう。 ○どんな特徴がありましたか。 ◆言葉を延ばしている。ゆっくりである。 ○次は一緒に歌いながら聴いてみましょう。 ・全体で聴いた後、二次元コードを読み取って個人練習をする。 ○次はDVDで鑑賞します。姿勢や口元にも注目しましょう。 ・気付いた特徴をワークシートに記入する。 ○これからグループに分かれて長唄を練習します。気付いた特徴を出し合いながら、特徴を生かして歌えるように練習しましょう。 ・教科書の二次元コードを読み取り、練習する。 ◆お腹から声を出そう。演歌みたいに歌う。どこまで伸ばすか考えよう。 ○ではグループごとに発表します。どんなことに気を付けて練習したか発表してから歌ってください。聴いている皆さんは、自分たちの歌との違いはどこにあるのか感じ取ってください。 ○他のグループと自分のグループの違いはありましたか。実際に歌ってみて気付いたことはありましたか。 ○皆さんが気付いた特徴の他にも、長唄の特徴的な歌い方があります。一緒にやってみましょう。 ・DVDで「唄い尻」や「ゴロ」の範唱を視聴し、真似て歌う。 ○唄い尻やゴロがあることで、音楽にどんな効果が生まれますか。 ◆間ができる。コブシのように響く。 ○では最後に、伴奏している三味線と長唄との関係を感じ取りながら歌ってみましょう。 ○三味線と長唄の関係で気付いたことは何ですか。 ◆唄と合っていない。三味線の音が静か。	個人 グループ 一斉	◎1回目は何も見ずに、CDだけを聴く。歌うことを予告し、集中して聴かせる。大まかな特徴をつかませる。 ◎2回目は口ずさみながらCDを聴く。 ◎3回目はDVDで鑑賞し、姿勢や発声に気付かせる。 □「どんな姿勢だった?」「口はどのくらい動いていた?」など、具体的に声を掛けながら机間指導をし、特徴を1つでも挙げられるようにする。 ◎普段歌っている発声と異なることに気付かせるよう、姿勢に気を付けさせる。 ◎各グループを周り、歌唱する際に気を付けるポイントを明確にしているか確認したり、発表に向けて自信を持たせる声掛けをしたりする。 ◎気付いたことを自由に発言させ、歌舞伎の特徴に関連している内容を全体で取り上げて、その部分を練習したり、DVDで聴き直したりして、長唄への理解を深めていく。 ◎「唄い尻」や「ゴロ」に気付いた生徒がいた場合には、その生徒の発言を生かして全員で歌唱する。 ◎「間」や「余韻」が生まれることに気付かせる。 ◎合唱曲の伴奏とは異なり、唄と三味線がずれているが、そのずれも日本の音楽の特徴であることに気付かせる。	主体的に学習に取り組む態度 (発言・ワークシート)

	4 長唄の効果や役割を考える ○前の時間に鑑賞した場面と同じ場面を鑑賞します。歌舞伎の長唄はどんな効果や役割があるか考えてみましょう。 ・場面1をDVDで鑑賞する。 ・Google Formsに考えを記入し、送信する。 ◆歌舞伎の堂々とした雰囲気を歌でも表している。ゆったりした感じが日本らしい。 ○考えたことをグループ内で意見交換をしましょう。 ○電子黒板を見てください。グループ以外の友達の考えも見てみましょう。	個人 グループ 一斉	◎主役の登場を華やかにしていることに気付かせる。 ◎事前にGoogle Classroomに課題を投稿しておく。 ◎個人→グループ→全体で発表するのは、様々な考えがあることを共有する目的のため。個で出た考えや意見を次時で深めていく。 ◎電子黒板に写しだし、全員の考えを共有する。	
終 結 8 分	5 本時を振り返る ○実際に歌ってみて、歌舞伎に対する見方は変わりましたか。 ・歌舞伎に対して見方が変わった点や歌ってみて分かったことをワークシートに記入し、発表する。 ○次の時間は、長唄が使われている違う場面を鑑賞して、音楽と物語の関係について深く考えていきます。 ・次時の学習内容を知り、意欲につなげる。	個人	◎第1時の感想と比較させるため、第1時で使用したプリントを事前に配布しておく。 ◎長唄は演技や表情だけでは伝えきれない空気感を作っていることに気付かせる。 ◎長唄には日本の音楽特有の節回しや「間」があり、その間などが日本の音楽の趣であり、よさであることを味わわせる。 ◎新たな視点や疑問点が上がった場合には、次時に全体で確認したり考えたりする時間を設けるようにする。	知識 (発言・ワークシート)

(4) 本時の評価

- ・「勸進帳」の長唄で使われている曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。(知識)
- ・歌舞伎の音楽に関心を持ち、主体的・協働的に音楽活動に取り組もうとしている。

(主体的に学習に取り組む態度)

十分満足できる (A)	
・実際に歌ってみたり、他のグループの演奏を聴いたりしながら勸進帳で使われる長唄の特徴や音楽の構造について気付き、歌舞伎に対して見方がどのように変わったかについてワークシートに記入したり、発言したりしている。(知識) ・長唄の発声や節回しが西洋音楽と異なることに気付き、その特徴を生かして、グループの友達と協力しながら表現活動に取り組んでいる。(主体的に学習に取り組む態度)	
努力を要する生徒 (C) への手立て	
・黒板の長唄の特徴を参考にさせたり、一緒に歌ったりしながら長唄の特徴に気付かせる。また、友達の気付きを参考にさせたり、個別で声掛けし時の会話から、言おうとしていることを引き出して言葉にさせたりする。(知識) ・グループの友達の意見を参考にしたり、歌い方を真似たりさせる。また、個別に声掛けをしたり、一緒に歌う練習をしたりして、関心を持たせていく。(主体的に学習に取り組む態度)	

(5) 準備物

- ① 教師：教科書，ワークシート，鑑賞CD・DVD，オーディオ機器，電子黒板，タブレット
- ② 生徒：教科書，ワークシート，タブレット

(6) 板書計画

長唄 ① これ や こ の ② ゆくもかえるも わかれては ③ しるもしらぬも おおさかの ④ や ま か く す	「長唄の特徴について学び、歌舞伎を味わおう」 ♪勸進帳 歌 (音楽) 舞 (舞踊) 伎 (演技) ↓ 長唄 <気付いた特徴> ・生徒から出た意見 ・○○○○